

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	会社簿記 (Corporate Bookkeeping)		授業コード	E007701
担当教員名	岡部 勝成		科目ナンバリングコード	E20609
配当学年	2	開講期	通年	
必修・選択区分	選択	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	原則『簿記入門、簿記原理の単位を取得していること』が履修の条件です。また、財務諸表論を履修することを強く勧めます。また、2/3以上の出席がなければ試験を受験することはできません。			
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあります)。 2. テキスト・問題集を必ず購入してください。 3. 電卓・そろばんを必ず持参してください。 4. 予習・復習を必ずしてください。			
教科書	TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』TAC出版(最新版を購入してください)			
参考文献及び指定図書	講義中に指示します。			
関連科目	簿記入門、簿記原理、原価計算論A・B、管理会計論A・B、財務諸表論、監査論A・B、経営分析			

授業の目的	簿記は日々の企業の活動を取引として記録・計算・整理するための技法であり、貸借対照表、損益計算書などの財務諸表を作成する上での、最初のプロセスです。これを間違ってしまうと、その積み重ねとして完成される財務諸表は正しいものとはいえなくなり、その意味で簿記のルールを学び、日々の取引を正確に記帳することが大事になってきます。特に現代においてははいずれの分野に進むにせよ、簿記の基礎的な知識は不可欠であり簿記を学んでおけば今後社会に出るにあたって、大きな力となるでしょう。本講義では各種簿記検定2級の取得を目指す予定であります。そして、後期で各種簿記検定2級に向け実践的な過去問演習に入っていきます。なお毎回演習を行いますので、指定テキストのほか電卓が必要となります。特に、簿記入門・簿記原理で習得した簿記の基礎知識を基にして、株式会社における簿記の中で重要な項目を選別して各種検定簿記2級レベルの学習・習得をしていきます。
授業の概要	中級の商業簿記を学ぶ学生のために、企業会計のなかの財務会計である商業簿記の知識と技術を詳しく解説していきます。簿記入門・簿記原理と同様に「簿記」という学問は、徐々に知識とテクニカル的なものを積み上げていかなければならない根気のいる地道な学問であります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：株式会社会計の基礎 会社には合資会社・合名会社・合同会社・株式会社といったさまざまな形式のものがありますが、ここでは株式会社の簿記、とりわけ個人企業との相違点について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第2週：一般商品売買 簿記入門、簿記原理で学習した一般商品売買の復習を含め、割引き、売上原価の計算、商品の期末評価について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第3週：特殊商品売買(1) 一般商品売買と特殊商品売買について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第4週：特殊商品売買(2) 代金を前もって予約金として受け取っておき、後から商品の引き渡しを行う販売形態である予約販売について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第5週：特殊商品売買(3) 商品が到着する前に貨物代表証券のまま他人に転売する未着品販売について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第6週：特殊商品売買(4) 委託販売と受託販売、委託買付と受託買付について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第7週：特殊商品売買(5) 取引先に商品を発送して一定の期間試用してもらい、取引先が買い取りの意思表示をしたときにはじめて売買契約が成立する試用販売について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。

第8週：特殊商品売買(6) 商品を引き渡したあと、月賦・年賦などの方法により、売上代金を数回に分割して定期的に回収する割賦販売について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第9週：有価証券(1) 有価証券の分類、購入と売却、配当や利息の受け取りの処理について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第10週：有価証券(2) 端数利息、決算時の処理有価証券の処理(評価)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第11週：固定資産(1) 固定資産の購入、決算(減価償却)、固定資産の売却について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第12週：固定資産(2) 固定資産の買替え、除却と廃棄、建設仮勘定、改良と修繕、未決算勘定について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第13週：手形取引(1) 自己受為替手形(自己指図為替手形)、荷為替手形、特殊な荷為替手形について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第14週：手形取引(2) 債務の保証、手形の裏書きと割引について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第15週：手形取引(3) 手形の不渡り、手形の更改について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第16週：引当金 貸倒引当金、その他の引当きについて説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第17週：株式の発行(1) 株式会社の定義、純資産(資本)の定義、設立時の株式発行について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第18週：株式の発行(2) 増資時の株式発行、株式申込証拠金について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第19週：無形固定資産・繰延資産 のれん(営業権)などの無形固定資産や繰延資産について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第20週：社債(1) 社債の定義、発行日、利払日について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第21週：社債(2) 決算日、満期償還、買入償還について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第22週：利益処分 剰余金の配当と処分の定義、会計処理、剰余金の処分における利益準備金の積立額について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第23週：損失処理 当期純損失の振り替え、繰越利益剰余金勘定が借方残高になった場合における説明をします。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第24週：決算(大陸式決算法)と財務諸表(1) 簿記一巡の手続きについて説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第25週：決算(英米式決算法)と財務諸表(2) 英米式による勘定の締め切りについて説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。
第26週：決算(大陸式決算法)と財務諸表(3) 大陸式による勘定の締め切りについて説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。

第27週：本支店会計(1) 本支店会計の定義、本支店間取引(内部取引)について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。	
第28週：本支店会計(2) 本支店間の商品発送取引(内部取引)、合併財務諸表の事例、未達取引の整理について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。	
第29週：本支店会計(3) 内部取引の相殺、内部利益の控除、合併財務諸表の作成について説明します。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。	
第30週：総括 これまでの講義範囲をテキストを使用して復習するとともに、配布プリントにより練習問題を解き、回答解説しより理解を深めます。	テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をします。	
第31週：期末試験 30回までの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分、テキスト、筆記用具、電卓、そろばんは持ち込み可とします。ただし、電子辞書、携帯電話は持ち込み不可です。	配布資料、試験問題、解答例	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考	欠席をすると理解ができなくなりますので、必ず出席をしてください。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	株式会社の簿記が、取引に該当するどうかの峻別から、なぜ記録・計算・報告が説明できる。
【知識・理解】	中級レベルの勘定科目の意味やその事由等が理解できる。 簿記一巡の流れの中から適切な処理判断ができ、それを理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	中級簿記の仕訳、試算表、精算表、決算等の処理ができる。
【思考・判断・創造】	中級簿記の論理的思考やその意味が考察できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点		
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	点数化しやすい科目のため定期試験のウェイトは高くなりますが、練習問題や課題の優劣で加点することもあります。
発表・その他 (無形成果)	授業のなかで適宜質問や練習問題を解き、回答解説を行います。優れた解答をした学生は、記録して加点することがあります。